大草谷津田いきものの里 自然観察会

谷津田の冬の野鳥

藤田 英忠（東金市）

日　時：2017 年 1 月 15 日（日）10 時 30 分～12 時　　天気：快晴
参加者：大人 16 名、子ども 6 名　計 22 名
担当指導員：木下順次　藤田英忠

今冬一番の冷え込みの朝、あちこちの湿地はすっかり凍りつき、やはり大草の田んぼも厚く凍っていた。しかし、天気は快晴。10 時ころからは気温も少しずつ上昇してきた。子どもと親たちが双眼鏡を持参して時間前から集まってきた。野鳥観察はこの大草ではみんな楽しみにされているようだ。千葉市に点在している池がある環境と違って、谷津、田んぼ、藪山から出てくる小鳥や猛禽類が観察されるのがいい。

実際 今日も陽だまりにヒタキ科の**ジョウビタキ**の雄がじっくり観察された。ジョウビタキはみんなよく知っている野鳥だ。羽根に上等な紋を付けた格上の鳥だ。そして開けた谷津の小さな葦原はやはり葦原を好むホオジロ科の**カシラダカ**が群れを成していた。私はこのカシラダカには思いがある。二、三十年も前に新潟県福島潟で山階鳥研の方とバンディングをしていた。秋には潟の広大な葦原にこのカシラダカが五千羽は入ってくる。これを、捕獲して足環をはめて放鳥するのだが、広大な葦原のそのホンの一角に 50 枚ほど霞網を張る。カシラダカを網に集めるには声のテープを流す。来るは来るは。捕獲にてんてこ舞いとなる。捕獲から放鳥までの作業は 8 人ぐらいのバンダ―でほぼ一日中かかる。一日全 500 羽を 20 日間かけることになる。頭羽の跳ね上がりは捕獲時には見られず、尾羽付け根上部のバフ斑が捕獲時は目印である。昨今カシラダカは少なくなってきた。なお、福島潟ではカシラだけでなく、アオジ、オオジュリンも同じ位入ってくる。その作業はカシラと同じである。秋とは違って、大草のこの時期のカシラは印旛沼や霞ケ浦からシベリアに帰る途中であろう。モズ科の**モズ**がカシラを追い払っていた。

田んぼに目をやると**セグロセキレイ**や**ハクセキレイ**のセキレイ科の中に**キセキレイ**が二羽採餌していて、黄色が目立っていた。また畔に一羽のアトリ科**シメ**とヒタキ科**ツグミ**が出たり入ったりで田んぼも面白い。氷が解け 餌がついばみやすくなったのであろう。

周囲の藪からはキツツキ科の**コゲラ**、シジュウカラ科の**シジュウカラ**、ヒヨドリ科の**ヒヨドリ**、エナガ科**エナガ**、ホオジロ科の**アオジ**が鳴き、時折姿を見せた。メジロ科の**メジロ**もじっくり姿を藪の袖にあらわれ、順光のなかウグイス色の体を双眼鏡でとらえられた。

十一時すぎ、そろそろ終わりごろ、あたたかな周囲の藪山の上空をタカ類が舞った。ゆっくりと下面を双眼鏡で追ったが森に入ってもはや出てこなかった。小型のツミほどの大きさと下面の白に対し尾羽と翼先の黒色が目立ったこと、顔がハヤブサに似ることから、ワシタカ科の**アカハラタカ** SP と思われたが、ツミかハヤブサかもしれない。アカハラタカの観察例が千葉県のほかの地域であればいいが。大草でこれからも観察時にぜひ注意してもらいたい。丁度渡りの季節である。

今日は十分に野鳥観察を楽しめた半日であった。もう少し暖かくなる日が続けば初春の鳥たちがたくさんでるだろう。しかし、今日のテーマは冬鳥。これで良し。

本日の出現鳥は下線で示した。他に**ハシブトカラス**、**ハシボソカラス**が鳴き、姿をあらわして、都市近郊の小さなビオトープであることを思わせた。

すっかり根ついてきた大草の、自然観察会。これからが楽しみだ。